

2000年9月5日

いすゞ、インドネシアでGMとのグローバル展開車（次世代多目的車）の第一弾を発売

— アジアカー「いすゞパンサー」をフルモデルチェンジ —

いすゞ自動車（株）は、本日インドネシアで多目的車「パンサー」をフルモデルチェンジし、発売した。今後は、ゼネラルモーターズ社（以下GM）との連携により、この車をベースとした次世代多目的車「160プロジェクト」（以下「160」）を、発展途上国を中心にグローバル展開していくこととなる。

いすゞは、1991年にインドネシアにおいて、アジア地域専用車として「パンサー」の生産、販売を開始し、1997年からはフィリピンでも生産、販売を行っている。「パンサー」は、乗用車的用途から貨物運搬までこなせる多目的車として、価格も手ごろなことから、好評を得てきた。

今回のフルモデルチェンジでは、定評のあった経済性と耐久性をさらに向上させると共に、高級感を増したクリーンでエアロダイナミックなスタイリングを採用、広い乗車スペースとカーゴスペースを確保し、シートアレンジによって最大9人まで乗車が可能となっている。あわせて、パワフルかつ環境対応に優れた直接燃料噴射式ディーゼルエンジンを採用し、市場競争力を高めた。

生産、販売は、現地のアッセンブラー・ディストリビューターであるパンチャモーター（P.T. Pantja Motor）が行なう。今年度の生産、販売は、28,000台を目標、2003年には60,000台を目指している。

「160」は、主に発展途上地域において、低価格で信頼性の高いエントリーレベルの多目的車として、グローバルに販売していくことを前提に開発された車両であり、いすゞとGMは両社のブランドで販売展開していくことで合意している。現在、いすゞとGMの生産拠点を中心に、両社で各市場への投入に向け、フィジビリティスタディ（事業化の検討）を行っている。今後は、両社の生産設備や、GMグループの流通、販売網の活用を図りながら、部品、コンポーネントの共通化など幅広い協業体制のもとに、順次市場投入をしていく計画である。

いすゞの市場では、インドネシアに引き続き、来年にはフィリピンでも「160」へのモデルチェンジを予定している。

なお、この「160プロジェクト」は、1999年10月19日に行われたGMグループの共同記者会見で発表された。

以上

資料

《新型パンサーの主な仕様》

車型	： ショート／ロング
グレード	： ショート／ロング 各3グレード
乗車定員	： 8名または9名
全長	： 4 2 6 5 / 4 4 3 5 mm
全幅	： 1 6 8 0 mm
全高	： 1 7 6 5 mm
ホイールベース	： 2 5 1 5 / 2 6 8 5 mm
エンジン	： 4JA1 直接燃料噴射型ディーゼルエンジン (2 4 9 9 c c)
駆動方式	： フロントエンジン、リアドライブ

《パンチャモーター概要》

社名	： P. T. パンチャモーター (P. T. Pantja Motor)
所在地	： インドネシア ジャカルタ市
設立	： 1 9 7 4 年
資本金	： 9 2 0 億ルピア
出資比率	： いすゞ 1 2 . 5 % 、伊藤忠商事 1 2 . 5 % 、 アストラグループ 6 4 . 9 % 、パンチャニアガ 1 0 . 1 %
事業内容	： 多目的車、商用車の組立、販売
生産実績	： '9 9 年3月期 5,7 0 0 台 (内 パンサー 5,1 0 0 台) '0 0 年3月期 1 9,2 0 0 台 (内 パンサー 1 1,8 0 0 台)
生産能力	： 7 5,0 0 0 台

以上